

社会的な制度や組織は「幸福」のためのものです。しかし、社会の幸福のために存在するはずの制度や組織が、逆に幸福の足枷となってしまうことがあります。それが社会的課題と呼ばれるものです。

例えば企業は、社会の幸福(生活水準の向上など)のために組織されたものですが、経済格差、リストラ、環境破壊などの社会的課題を生んでしまいます。またスポーツも、社会や人々の幸福のために創造されてきたものである一方、体罰問題、勝利至上主義などの社会的課題を同時に生んでしまっています。

つまり社会的課題とは、実は社会を良くしようとした働き掛けの下に生起する非常に厄介なものといえるでしょう。

では、諸外国ではスポーツにおいてどのような社会的課題があるのでしょうか。

左表は、海外の子どもたちのためのスポーツ振興の制度を整理したものです。もちろん諸外国の州や市区などによって事情が異なりますが、各国の概要の説明は足りると考えます。国別にみた子どもたちのスポーツ振興の制度は、大きく「学校型」、「学校地域型」、「地域型」の3類型でとらえることができます。

「学校型」とは学校間の対抗戦を中心にスポーツが発展してきた国々であり、日本はここに分類します。「学校地域型」は学校以外にも地域のスポーツが盛んな国々であり、イギリスが起点となっています。「地域型」は、福祉国家が占める北欧

が多く、地域のスポーツクラブを中心としながら発展してきた国々です。「学校型」はさらに細分化させることができますが、アメリカの一例だけを今回紹介します。

アメリカでは、1年間を夏、冬、春のシーズンに分け、子どものときから複数のスポーツを経験することが一般的です。ただし、入部に際しては能力試験があるため、誰もが希望するスポーツを必ず行えるわけではありません。さらに、州やスポーツ(ベースボール、アメリカンフットボール、バスケットボール、アイスホッケーなど)の状況によっても大きく事情が異なります

が、学業で規定の基準をクリアできなければスポーツへの参加資格を失います。子どもたちは勉強が本分であることを指導者から徹底的にたたきこまれます。それを教える指導者は「プロ」であり、相応の手当てが保障されています。日本と決定的に違う点がここにあるでしょう。

そんなアメリカにおけるスポーツを取り巻く社会的課題は、環境の良い学校に「優秀な子ども」と「優秀な指導者」が集まる構造となってしまう、それ以外の子どもたちはスポーツをする機会が得られにくいことです。スポーツが選ばれた一部の子どもたちのものとなり、格差が大きくなっています。一部の子どものたちというところでいえば、中国と韓国も同様の課題をもっているといえるでしょう。

表・各国における子どもたちのスポーツ振興の類型化	学校地域型	学校型		学校地域型		地域型
		民活型	国家型	大英帝国型	中央集権型	
	日本	アメリカ	中国 韓国 台湾	ロシア イギリス フランス ドイツ オーストラリア ニュージーランド アメリカ	フランス スペイン イタリア ベルギー オランダ	ドイツ
					ポーランド ロシア	中央 フィンランド スウェーデン

その点、日本のスポーツは子どもたちを選びません。特に部活動は多くの子どもたちに開放されています。次回は日本におけるスポーツと社会的課題についてみていきたいと思います。

大学図書館にはこんな本があります

〜スポーツと社会に関する本〜

『スポーツは誰のためのものか』

杉山茂 慶應義塾大学出版会

『スポーツの世界地図』 Alan Tomlinson 丸善

『21世紀のスポーツ社会学』

日本スポーツ社会学会/編 創文企画

●開館時間変更などのお知らせ

8月11日(月)〜9月21日(日) (夏休み期間)

開館時間：9時〜19時

臨時休館：8月14日(木)・15日(金)

●問い合わせ ☎01654②4199

本館：内線3114 分館：内線2200

図書館的話題・ビブリオバトル

夏休みの宿題の読書感想文で何をどう書けば良いのか悩んだ方も多いと思います。ですが、気に入った本を人に紹介するだけなら、気軽にできませんか。それをゲームにしたのが“ビブリオバトル”で大学祭でも好評でした。



日頃のサークル活動の別メニューとしてや自己紹介代わりなど、いろいろな場面で言うと、お互いをさらに知ることができたり、共通の話題が増えたり、さらには、読書意欲も高まります。

読書感想文で困っている小中学生の皆さんも、友達同士や家庭内でビブリオバトルをやってみると、書く内容が見つかるかもしれませんね。